

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知県豊田加茂総合庁舎	階数	地下0階地上3階
建設地	豊田市元城町四丁目45番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・緑化地域	平均居住人員	206人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,150時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年1月 予定	評価の実施日	2024年10月28日
敷地面積	5,987 m ²	作成者	千葉 裕紀
建築面積	1,898 m ²	確認日	2024年10月31日
延床面積	4,619 m ²	確認者	千葉 裕紀



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	56%
③上記+②以外の	56%
④上記+	56%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>17.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>4.6 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	17.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	4.6 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	17.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	4.6 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>愛知県産杉板・杉集成材</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>内装材に使用する木仕上材は全て愛知県産材</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動に応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
愛知県豊田加茂総合庁舎

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1.2.1 開口部遮音性能									
1.2.2 界壁遮音性能									
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
2.1.1 室温									
2.1.2 外皮性能									
2.1.3 ソーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
3.1.1 昼光率									
3.1.2 方位別開口									
3.1.3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
3.2.1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気環境									
4.1 発生源対策									
4.1.1 化学汚染物質									
4.2 換気									
4.2.1 換気量									
4.2.2 自然換気性能									
4.2.3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
4.3.1 CO ₂ の監視									
4.3.2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1.1.1 広さ・収納性									
1.1.2 高度情報通信設備対応									
1.1.3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)									
1.2.2 リフレッシュスペース									
1.2.3 内装計画									
1.3 維持管理									
1.3.1 維持管理に配慮した設計									
1.3.2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)									
2.1.2 免震・制震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
2.2.1 躯体材料の耐用年数									
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔									
2.4 信頼性									
2.4.1 空調・換気設備									
2.4.2 給排水・衛生設備									
2.4.3 電気設備									
2.4.4 機械・配管支持方法									
2.4.5 通信・情報設備									

3 対応性・更新性				0.2	3.7	0.29	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高平均:4.300m		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率:0.21	3.0	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.6	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			② ケーブルラックに配線 ケーブルラックに配線 バックアップスペースを確保		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	4.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										4.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.69	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				ハイサイドライトによる自然光利用	3.0	4.0	0.20	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.4	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用					0.2	4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価					1.0	4.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			各課ごとのエネルギー消費量を把握、管理できる 運用時もBEI=0.5以下となるよう建築主に提案している		3.0	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	4.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	4.1
1 水資源保護					0.1	4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 節水				自動水栓(節水コマ)、節水型便器	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	4.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				散水用に雨水を利用	3.0	4.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				雨水を雑用水として利用	3.0	4.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	4.3	0.63	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減			② 独自 独自	高炉セメント		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				再生加熱アスファルト混合物、再生クラッシュラン(あいくる認定材)、ビニル床材	3.0	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				木仕上材はすべて県内産とする	3.0	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				木仕上材は県内産を採用/可動間仕切り	3.0	5.0	0.05	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	5.0	0.24	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				ビニル床材(エコGAセメント)	3.0	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68	-	-	
1 消火剤						-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				押出法ポリスチレンフォーム(ODP=0 GWP=50未満)		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率56%		4.7	0.33	-	-	4.7
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	雨水流出抑制槽を設置し自主的に対策		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音			独自			3.0	1.00	-	-	
2 振動			独自			-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						-	-	-	-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				「良い照明環境を得るためのチェックリスト」及び「広告物照明における配慮事項」が共に過半を満たす		5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.7
LR3-1 地球温暖化への配慮	4.7	0.10	
② 資源の有効活用			4.1
Q2-2 耐震性・信頼性	4.2	0.09	
Q2-3 対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	4.3	0.19	
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1 生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:17.2%/建物緑化:4.6%
④ 地域材の活用			4.0
(評価ポイント)			
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	愛知県産杉板・杉集成材
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	1.0	-	内装材に使用する木仕上材は全て愛知県産材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 愛知県豊田加茂総合庁舎

計画上の配慮事項	
総合	法規制を遵守しながら、利用者が快適に過ごせる省エネ性能の高い機能的な部分と県産部材をふんだんに使用し親しみやすくあたたかみのある意匠的な部分を両立させる建物となるよう計画した。
Q1 室内環境	冷暖房が効きやすい断熱性を高めた外皮性能としながら、自然光を取り入れられる開口部を設置。直射光によるまぶしさを調整できるように配慮した。
Q2 サービス性能	事務室で勤務する職員・来庁した利用者ともに快適に過ごせるような空間形成とした。メンテナンスのしやすい壁床材とし美観と機能性を両立できる仕上材の選定を行った。 設備系部品部材に対する耐用性にも配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	内装の一部に地域産木材を採用した。 四季の移ろいを利用者に与え敷地内の暑熱環境低減にも寄与するよう中高木と低木をバランスよく織り交ぜ地被類も可能な限り植栽する計画とした。
LR1 エネルギー	外皮への熱負荷低減を図りながら積極的な設備システムの高効率化を行った。
LR2 資源・マテリアル	水栓類には自動水栓を採用し、便器は節水型とした。灌水設備に雨水を利用する仕組みとした。基礎部分には高炉セメントを、内装材には持続可能な県内産木材を採用し資源使用量の削減に寄与する計画とした。
LR3 敷地外環境	建築物の省エネルギー化によるライフサイクルCO2を大幅に抑え、地表面への緑化や風の通りを阻害しないよう配慮。雨水貯留槽を設置し周辺インフラへの負荷低減に努めた。街の中心部でもあるため周辺道路に混雑が生まれないよう交通負荷にも配慮した。
その他	